

# 環境影響評価準備書(案)について

■ 予測・評価結果

環境要素の区分	影響要因の区分	予測			環境保全措置	評価
		予測の手法	予測の結果	整合を図るべき基準 又は参考値		
二酸化窒素	工事(建設機械)	拡散式を用いた予測	0.0284 0.0275~0.0372ppm	【環境基準】 1時間値の1日平均値が 0.04ppm~0.06ppmの ゾーン内又はそれ以下	—	○
	工事(工事用車両)		0.024~0.027ppm		—	○
	供用		0.024~0.026ppm		—	○
浮遊 粒子状物質	工事(建設機械)		0.0437 0.0436~0.0450mg/m <sup>3</sup>	【環境基準】 1時間値の1日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> 以下	—	○
	工事(工事用車両)		0.043mg/m <sup>3</sup>		—	○
	供用		0.0432~0.0433mg/m <sup>3</sup>		—	○
粉じん等	工事(建設機械)	事例の引用または解析により得られた経験式を用いた予測	2.9 2.2~7.2t/km <sup>2</sup> /月	【参考値※】 (10t/km <sup>2</sup> /月)	—	○
	工事(工事用車両)		0.3~1.1t/km <sup>2</sup> /月		—	○

※参考値：スパイクタイヤ粉じんにおける生活環境の保全が必要な地域の指標を参考とした目安20t/km<sup>2</sup>/月（「スパイクタイヤ粉じんの発生の防止に関する法律の施行について」（平成2年7月環大自第84号））から、降下ばいじん量の比較的高い地域の値である10t/km<sup>2</sup>/月を差し引いて設定された値

## 準備書の構成(環境影響評価法第14条第1項、国交省令第33条 等)

1.都市計画対象道路事業の名称

2.都市計画決定権者の名称

3.都市計画対象道路事業の目的及び内容

4.都市計画対象道路事業実施区域及びその周囲の概況

5.計画段階環境配慮書における調査、予測及び評価の結果

6.計画段階環境配慮書についての  
国土交通大臣意見と都市計画決定権者の見解

7.計画段階環境配慮書の案又は配慮書についての  
意見 と見解

8.方法書について意見を有する者の意見の概要  
及びそれに対する都市計画決定権者の見解

9.方法書についての知事意見  
及びそれに対する都市計画決定権者の見解

10.都市計画対象道路事業に係る環境影響評価の項目  
並びに調査、予測及び評価の手法

11.環境影響評価の結果  
(調査・予測及び評価結果、環境保全措置)

12.事後調査

13.環境影響評価の総合的な評価

14.環境影響評価の委託先

○調査、予測及び評価の手法は、国土交通省令に基づき、道路環境影響評価の技術手法(平成24・令和2年度版)に示される手法、並びに愛知県の環境影響評価指針に示される参考手法を参考として、事業特性及び地域特性を踏まえて選定しています。

環境要素の区分			調査の手法	予測の手法
大気環境	大気質	二酸化窒素・浮遊粒子状物質		拡散式を用いた予測
		粉じん等		事例の引用または解析により得られた経験式を用いた予測
	騒音	騒音		音の伝搬理論に基づく予測式を用いた計算による予測
	振動	振動		事例の引用または解析により得られた振動の伝搬理論式に基づく予測式を用いた予測
	低周波音	低周波音		既存の調査結果より導かれた予測式を用いた予測
水環境	水質	水の濁り		類似事例を用いた推定による予測
その他の環境要素		日照障害		日影図の作成による予測
動物	重要な種及び注目すべき生息地		資料調査、現地調査	科学的知見や類似事例を参考とした予測
植物	重要な種及び群落			
生態系	地域を特徴づける生態系			
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観			
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場			
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況				地域の歴史的文化的特性を生かした環境と事業実施区域の重ね合わせによる予測
廃棄物等	建設工事に伴う副産物		資料調査	事業特性及び地域特性の情報を基にした予測
温室効果ガス等	温室効果ガス等			工事実施に伴い発生する温室効果ガスの発生状況を把握

評価の手法	①事業者により実行可能な範囲内で回避又は低減、若しくは環境保全への配慮がなされているか検討 ②法的な基準に適合しているか検討（※法令で評価基準または目標が示されている場合）
-------	---

## ■環境影響評価の結果(2/2)

環境要素の区分		影響要因の区分	予測の結果		環境保全措置	評価結果	事後調査
			工事	存在			
動物		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
植物		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
生態系		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	存在	—	○	—	○	実施しない
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	存在	—	○	—	○	実施しない
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
廃棄物等	建設工事に伴う副産物	工事	×	—	工事間流用の促進、再資源化施設への搬入等による他事業等での利用	○	実施しない
温室効果ガス等		工事	×	—	作業者に対する建設機械の省エネ運転の指導、作業者に対する工事用車両のエコドライブの指導	○	実施しない

(凡例)

予測結果 ○:影響がない又は極めて小さい / ×:影響あり(基準超過など)

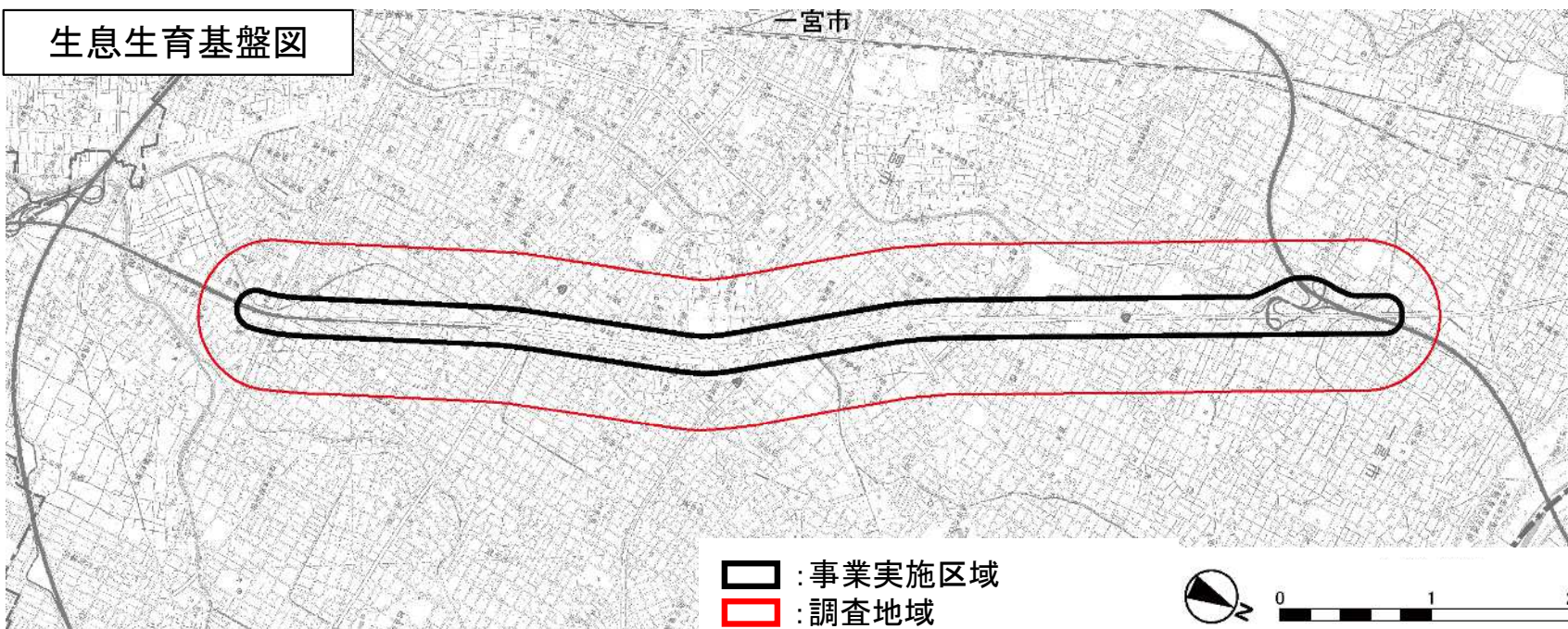
評価結果 ○:環境の保全についての配慮が適正



## 調査結果

環境要素の区分	調査した情報	調査の手法	調査結果
動物 (重要な種及び注目すべき生息地)	○動物相の状況 ○重要な種等の状況	既存資料調査及び現地調査	<重要な種> 哺乳類:1種(ホンシュウカヤネズミ)、鳥類:10種(チュウサギ、ケリ等) 爬虫類:2種(ニホンイシガメ等)、両生類:2種(トノサマガエル等) 魚類:6種(ドジョウ、ミナミメダカ等)、昆虫類:8種(ノシメトンボ等) 底生動物:3種(マルタニシ等)、陸産貝類:3種(ナガオカモノアラガイ等)
植物 (重要な種及び群落)	○植物相及び植生の状況 ○重要な種及び群落の状況		<重要な種> 植物:3種(ナガエミクリ、ミズタカモジグサ、カワヂシャ)
生態系 (地域を特徴づける生態系)	○自然環境に係る概況 ○注目種・群集の状況		<都市生態系の注目種> 上位性:(鳥)アオサギ、コサギ等のサギ類 典型性:(鳥)ケリ、(両生類)ニホンアマガエル、(底)ヒメタニシ

生息生育基盤図



## ■ 予測及び評価結果

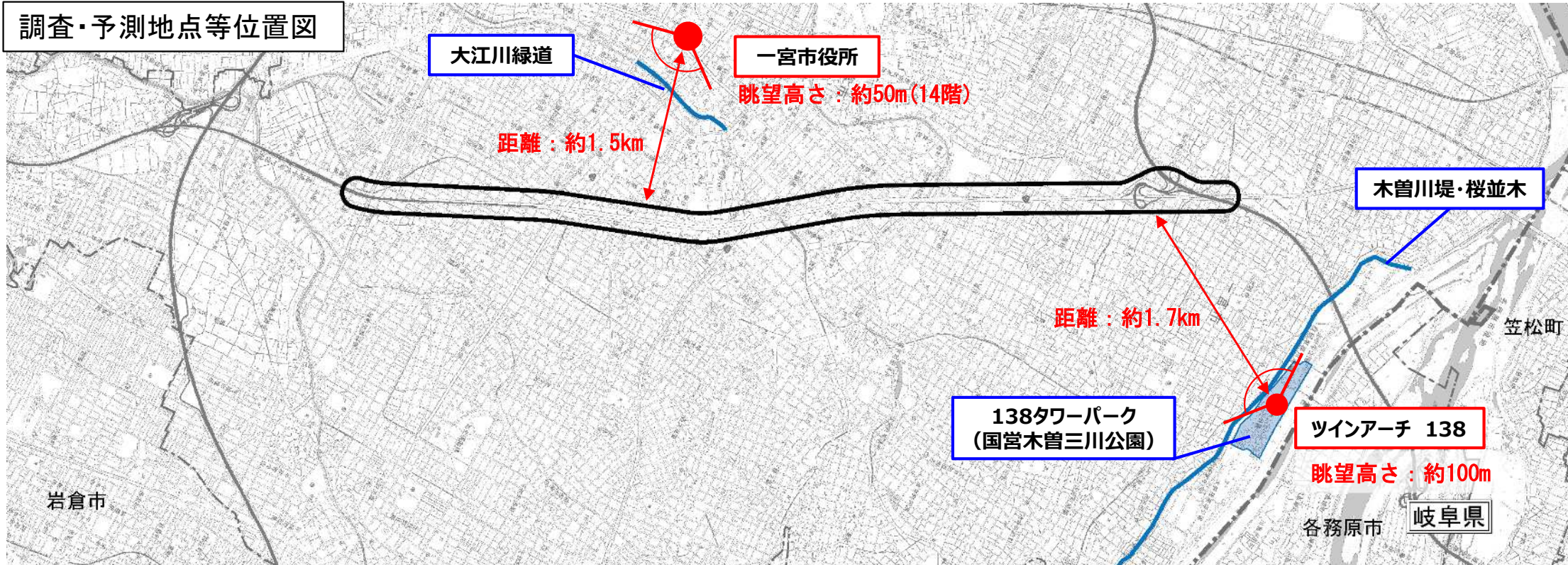
環境要素の区分	影響要因の区分	予 測		環境保全措置	評 価
		予測の手法	予測結果		
動物 (重要な種及び注目すべき生息地)	工事/存在	科学的知見等を参考とした予測	対象道路は、概ね既存道路の敷地内で計画されており、重要な種の主な生息環境の改変はほとんど生じないため、重要な哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、底生動物及び陸産貝類への影響は極めて小さい。	—	○
植物 (重要な種及び群落)			対象道路は、概ね既存道路の敷地内で計画されており、重要な種の主な生育環境の改変はほとんど生じないため、重要な植物への影響は極めて小さい。	—	○
生態系 (地域を特徴づける生態系)			対象道路は、概ね既存道路の敷地内で計画されており、重要な種の主な生息環境の改変はほとんど生じないため、注目種・群集の生息・生育基盤及び地域を特徴づける生態系への影響は極めて小さい。	—	○



## ■調査結果

調査した情報	調査の手法	調査結果の概要
<ul style="list-style-type: none"> <li>○主要な眺望点の状況</li> <li>○景観資源の状況</li> <li>○主要な眺望景観の状況</li> </ul>	既存資料調査 及び現地調査	<主要な眺望点> 調査地域に2箇所存在 <景観資源> 調査地域に4箇所存在 <眺望景観> 景観資源を視認できる

調査・予測地点等位置図



	主要な眺望点・画角
	景観資源

濃尾平野

: 事業実施区域





## ■ 予測及び評価結果

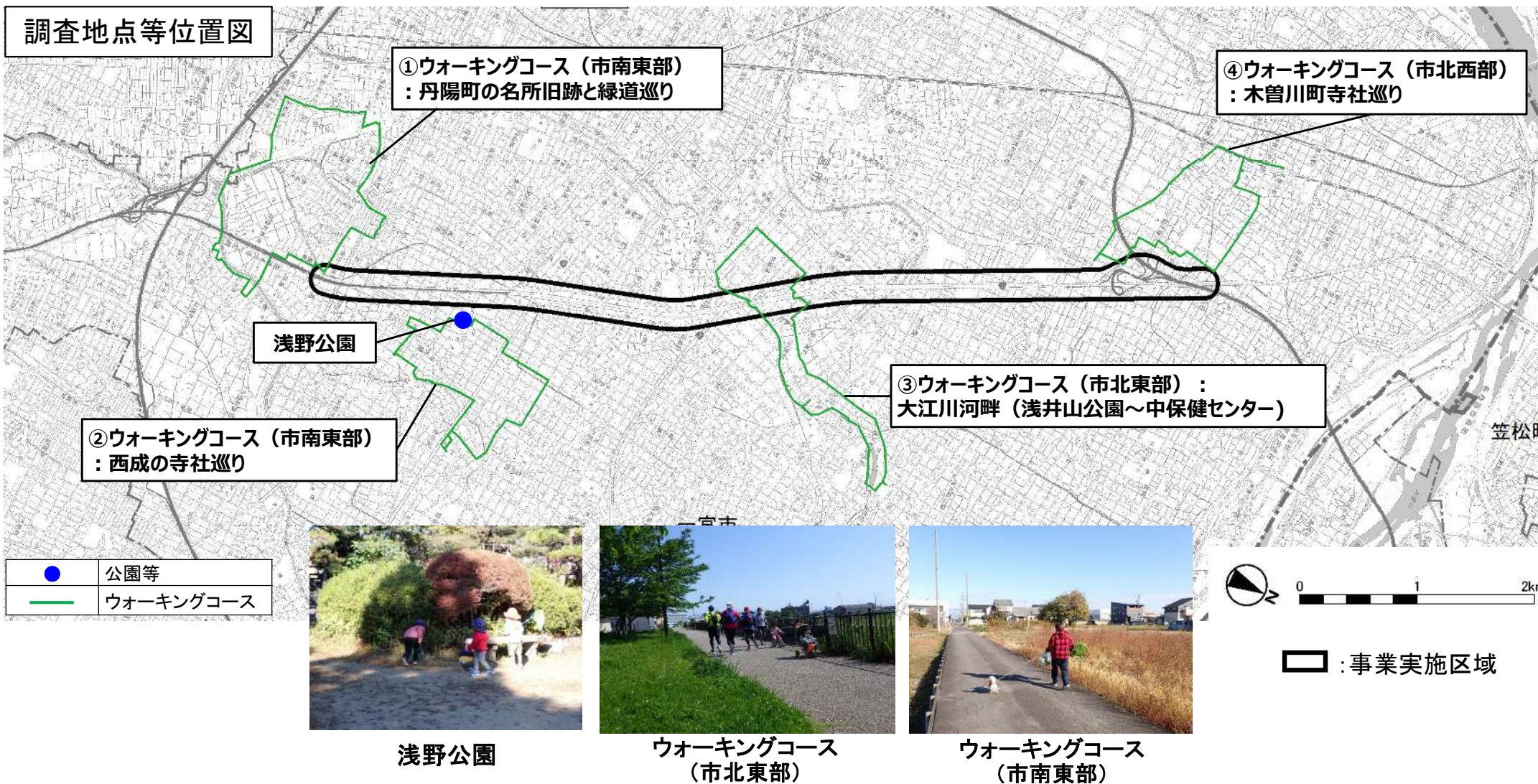
影響要因 の区分	予 測		環境保全措置	評価
	予測の手法	予測結果		
道路の存在	フォトモンタージュ法等の視覚的な表現方法等による予測	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要な眺望点及び景観資源の改変は生じない。</li> <li>・対象道路等は、周辺建物により遮蔽されて目立ちにくく、主要な眺望景観への影響は極めて小さい。</li> </ul>	—	○





## ■ 調査結果

調査した情報	調査の手法	調査結果
○人と自然との触れ合いの活動の場の概況、分布、利用状況等	既存資料調査及び現地調査	<分布> 調査地域に公園1箇所、ウォーキングコース4コースが存在 <利用状況等> 公園：散歩・散策・ジョギング・虫とり等 ウォーキングコース：散歩・散策・ジョギング等

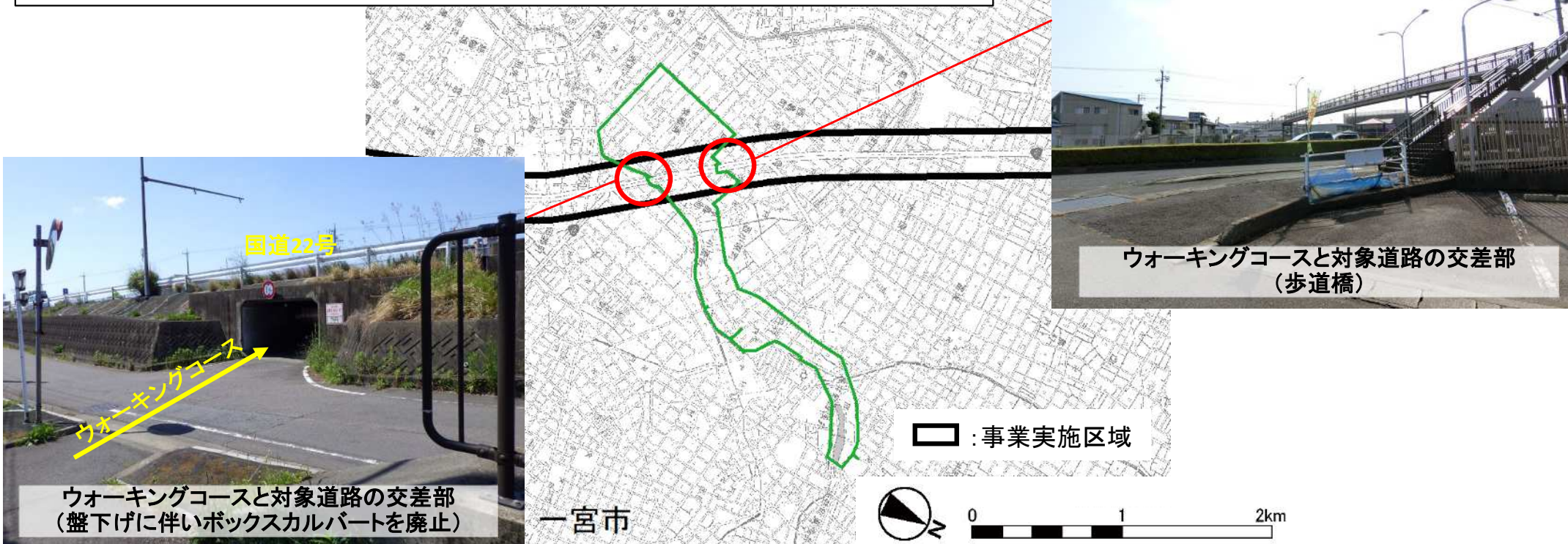




## ■ 予測及び評価結果

影響要因 の区分	予 測		環境保全措置	評 価
	予測の手法	予測結果		
道路の存在	主要な人と自然との触れ合いの活動等と事業実施区域の重ね合わせによる予測	ウォーキングコース (市北東部:大江川河畔(浅井山公園~中保健センター)) 国道22号の盤下げに伴い、ボックスカルバートが廃止されるが、利用者に対する付近の横断歩道への誘導等を適切に行うことから、利用の支障は生じない。	—	○

### ③ウォーキングコース(市北東部) : 大江河川 (浅井山公園~中保健センター)





## ■調査、予測及び評価結果

調査した情報	調査の手法	調査結果の概要
○主要な地域の歴史的文化的環境の状況	既存資料調査及び現地調査	調査地域に <small>じょうぼし</small> 天然記念物1箇所(常保寺のイチヨウ)、 <small>いふりべ</small> 史跡1箇所(伊富利部古墳)が存在

影響要因の区分	予測		環境保全措置	評価
	予測の手法	予測結果		
工事/存在	地域の歴史的文化的特性を生かした環境と事業実施区域の重ね合わせによる予測	・地域の歴史的文化的特性を生かした環境に直接改変は生じず、道路の存在による影響はない	—	○

調査・予測地点等位置図



●	史跡
●	天然記念物



## ■ 廃棄物等の予測及び評価結果

環境要素の区分	影響要因の区分	予 測		環境保全措置	評 価
		予測の手法	予測結果		
廃棄物等	工事	事業特性及び地域特性の情報を基にした予測	<発生量> 建設発生土：211.5 千m <sup>3</sup> 発生 コンクリート塊：3.3 千m <sup>3</sup> 発生 アスファルト・コンクリート塊：20.2 千m <sup>3</sup> 発生 建設汚泥、建設発生木材：ほとんど発生しない <区域外搬出> コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊については、発生量の全量を区域外搬出する。	・工事間流用の促進 ・再資源化施設への搬入等による他事業等での利用	○

## ■ 温室効果ガス等の予測及び評価結果

環境要素の区分	影響要因の区分	予 測		環境保全措置	評 価
		予測の手法	予測結果		
温室効果ガス等	工事	工事実施に伴い発生する温室効果ガスの発生状況の把握	工事期間において、約7,730tCO <sub>2</sub> が発生	・作業者に対する建設機械の省エネ運転の指導 ・作業者に対する工事用車両のエコドライブの指導	○

## ■環境影響評価の結果(1/2)

環境要素の区分		影響要因の区分	予測結果		環境保全措置	評価結果	事後調査
			工事	供用・存在			
大気質	二酸化窒素・浮遊粒子状物質	工事(建設機械)	○	-	-	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	-	-	○	実施しない
		供用	-	○	-	○	実施しない
	粉じん等	工事(建設機械)	○	-	-	○	実施しない
		工事(工事用車両)	○	-	-	○	実施しない
騒音	工事(建設機械)	×	-	防音シートなどの遮音対策	○	実施しない	
	工事(工事用車両)	○※	-	-	○	実施しない	
	供用	-	×	遮音壁の設置、排水性舗装の敷設	○	実施しない	
振動	工事(建設機械)	○	-	-	○	実施しない	
	工事(工事用車両)	○	-	-	○	実施しない	
	供用	-	○	-	○	実施しない	
低周波音	低周波音	供用	-	○	-	○	実施しない
水質	水の濁り	工事	○	-	-	○	実施しない
日照阻害		存在	-	○	-	○	実施しない

(凡例)

予測結果 ○:影響がない又は極めて小さい / ×:影響あり(基準超過など)

評価結果 ○:環境の保全についての配慮が適正

※騒音(工事用車両)の予測結果は、予測値が基準又は目標を超過しているが、現況値を増加させない値である。



## ■環境影響評価の結果(2/2)

環境要素の区分		影響要因の区分	予測の結果		環境保全措置	評価結果	事後調査
			工事	存在			
動物		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
植物		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
生態系		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
景観	主要な眺望点及び景観資源並びに主要な眺望景観	存在	—	○	—	○	実施しない
人と自然との触れ合いの活動の場	主要な人と自然との触れ合いの活動の場	存在	—	○	—	○	実施しない
地域の歴史的文化的特性を生かした環境の状況		工事/存在	○	○	—	○	実施しない
廃棄物等	建設工事に伴う副産物	工事	×	—	工事間流用の促進、再資源化施設への搬入等による他事業等での利用	○	実施しない
温室効果ガス等		工事	×	—	作業者に対する建設機械の省エネ運転の指導、作業者に対する工事用車両のエコドライブの指導	○	実施しない

(凡例)

予測結果 ○:影響がない又は極めて小さい / ×:影響あり(基準超過など)

評価結果 ○:環境の保全についての配慮が適正